

令和7年度

Bring up 児童発達支援  
従業者アンケート 集計結果

【Bring up ちば子ども発達センター】

【Bring up みどり子ども発達センター】

【Bring up もりのみ幼児教室】



Bring up

【Bring up ちば子ども発達センター】

《児童発達支援》従業者アンケート集計結果

1. アンケート配布数・回収数・回収率

配布数	15	回収数	15	回収率	100%
-----	----	-----	----	-----	------

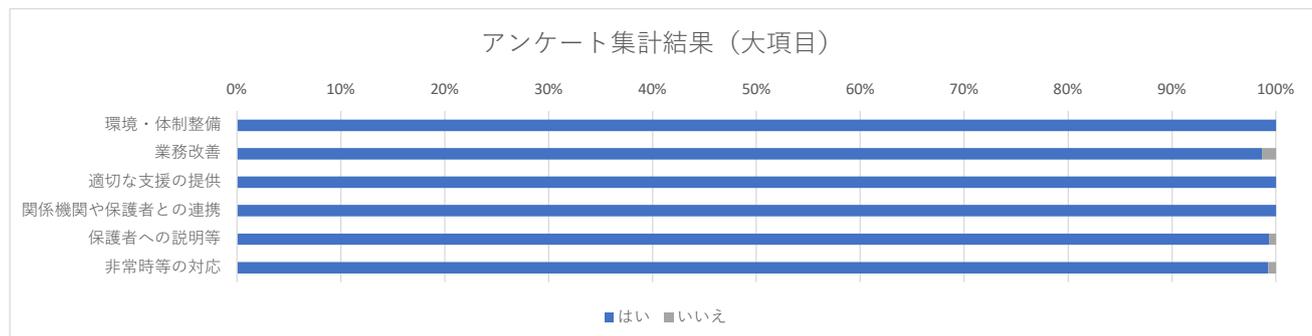
2. アンケート集計結果(大項目・小項目)

大項目	小項目	回答数			回答割合	
		はい	いいえ	合計	はい	いいえ
環境・体制整備	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	15	0	15	100%	0%
	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	15	0	15	100%	0%
	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	15	0	15	100%	0%
	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	15	0	15	100%	0%
	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	15	0	15	100%	0%
業務改善	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	14	1	15	93%	7%
	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	15	0	15	100%	0%
	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	15	0	15	100%	0%
	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	15	0	15	100%	0%
適切な支援の提供	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	15	0	15	100%	0%
	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	15	0	15	100%	0%
	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	15	0	15	100%	0%
	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	15	0	15	100%	0%
	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	15	0	15	100%	0%
	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	15	0	15	100%	0%
	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	15	0	15	100%	0%
	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	15	0	15	100%	0%
	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	15	0	15	100%	0%
	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	15	0	15	100%	0%
	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	15	0	15	100%	0%
	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	15	0	15	100%	0%
	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	15	0	15	100%	0%
	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	15	0	15	100%	0%
	関係機関や保護者との連携	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	15	0	15	100%
地域の保健、医療(主治医や協力医療機関等)、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。		15	0	15	100%	0%
併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。		15	0	15	100%	0%
就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。		15	0	15	100%	0%
地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。		15	0	15	100%	0%
質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。		15	0	15	100%	0%
(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。		15	0	15	100%	0%
保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。		15	0			
日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	15	0	15	100%	0%	

	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	15	0	15	100%	0%
保護者への説明等	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	15	0	15	100%	0%
	児童発達支援計画を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	15	0	15	100%	0%
	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	15	0	15	100%	0%
	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	15	0	15	100%	0%
	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	15	0	15	100%	0%
	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	15	0	15	100%	0%
	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	15	0	15	100%	0%
	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	15	0	15	100%	0%
	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	15	0	15	100%	0%
	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	14	1	15	93%	7%
非常時等の対応	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	15	0	15	100%	0%
	業務継続計画(BCP)を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	15	0	15	100%	0%
	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	15	0	15	100%	0%
	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	15	0	15	100%	0%
	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	15	0	15	100%	0%
	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	15	0	15	100%	0%
	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	15	0	15	100%	0%
	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	15	0	15	100%	0%
	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	14	1	15	93%	7%

### 3. アンケート集計結果(大項目)

大項目	回答数		合計	回答割合	
	はい	いいえ		はい	いいえ
環境・体制整備	75	0	75	100%	0%
業務改善	74	1	75	99%	1%
適切な支援の提供	195	0	195	100%	0%
関係機関や保護者との連携	150	0	150	100%	0%
保護者への説明等	149	1	150	99%	1%
非常時等の対応	134	1	135	99%	1%



### 4. 自己分析

#### ① 事業所の強み

専門職を含む意欲的な職員が多く、多職種連携のもと質の高い支援を実施している。  
 感覚統合や応用行動分析を基盤とした専門的支援を共通理解のもと行い、ケース検討や振り返りも定着している。  
 また、広い活動スペースを活かした身体活動や、地域・保護者支援にも積極的に取り組んでいる。

#### ② エ夫している取組

支援の振り返りやケース検討の時間を意識的に確保し、職種を問わず意見を出しやすい環境づくりを行っている。  
 オンライン会議や研修を活用し、専門職間や他機関との情報共有を実施している。  
 安全面に配慮した職員配置や声掛けを行い、事故防止に努めている。

③ さらなる充実に向けた取組

機能的アセスメントや支援ツールを活用し、根拠に基づく支援を一層推進する。  
OJTや研修体制を整備し、職員の専門性向上と育成を図る。  
あわせて、スーパーバイザーを担える人材の育成を進める。

④ 事業所の弱み

人手不足や業務量の多さにより、職員の負担が大きい。  
職員の入れ替わりが比較的多く、支援の継続性に課題がある。  
また、施設構造上の防犯面や、外活動環境の制約がある。

⑤ 課題の要因

ライフステージの変化により人員の変動が生じやすい職員構成である。  
専門的支援や地域連携を重視しているため、預かり機能の拡充が難しい。  
業務分担が細分化され、負担が偏りやすい状況も要因となっている。

⑥ 改善に向けた取組

人材確保と育成を両立し、SV・リーダー育成の仕組みを整備する。  
業務内容や分担を見直し、効率化と負担軽減を図る。

5. 自己分析

子どもたちに柔軟な支援を提供し、職員間で情報共有を行っていることについては従業員としてもできているとの評価となりました。広い遊び場や視覚支援を活用し、個別対応を強化していることで柔軟な支援ができていたという意見もありました。業務改善には定期的な研修やケースカンファレンスを実施し、職員のスキルアップを支援していることを事業所の強みとしてとらえている職員が多数おりました。毎月、保護者や子どもの意見を取り入れた活動計画を立て、感覚プロフィールに基づいた支援を行っています。今後も、アセスメントツールを導入し、特性に応じたプログラム作成を進め、柔軟でお子様一人ひとりにあった支援が提供できるよう運営をまいります。一方で、質の高い支援の継続をしていく中での業務量の多さなどが課題であると職員の認識があります。地域の中で中核的な位置づけとなる児童発達支援センターで継続した質の高い支援を行っていくために今後もより業務効率を上げていく方法を考えていきたいと思っております。強みを高め、改善に取り組むことで、より信頼される運営を目指します。

施設長 小山 恵美子

【Bring up みどり子ども発達センター】

《児童発達支援》従業者アンケート集計結果

1. アンケート配布数・回収数・回収率

配布数	14	回収数	14	回収率	100%
-----	----	-----	----	-----	------

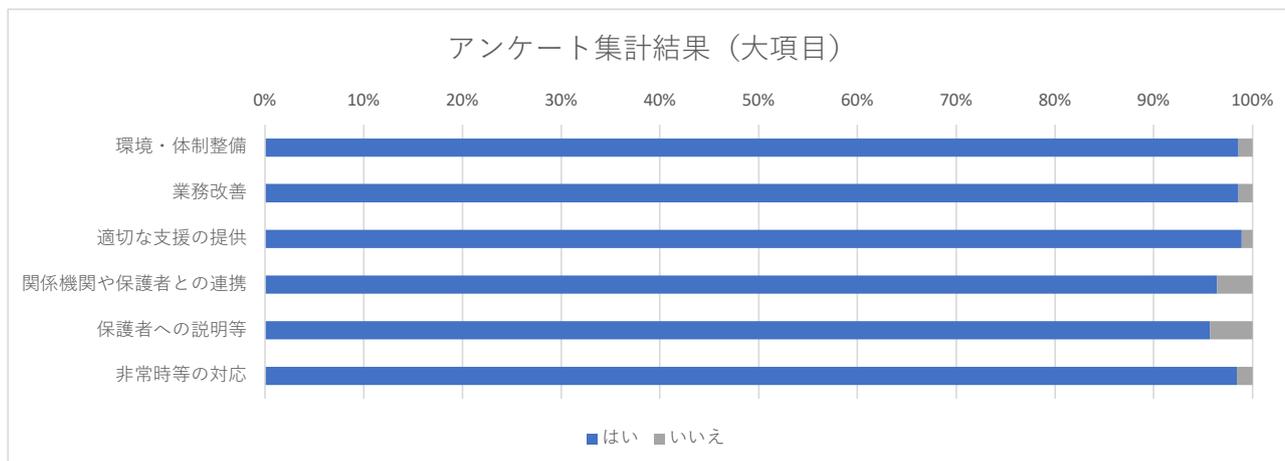
2. アンケート集計結果(大項目・小項目)

大項目	小項目	回答数			回答割合	
		はい	いいえ	合計	はい	いいえ
環境・体制整備	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	14	0	14	100%	0%
	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	14	0	14	100%	0%
	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	13	1	14	93%	7%
	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。	14	0	14	100%	0%
	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	14	0	14	100%	0%
業務改善	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	14	0	14	100%	0%
	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	14	0	14	100%	0%
	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	14	0	14	100%	0%
	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	13	1	14	93%	7%
	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	14	0	14	100%	0%
適切な支援の提供	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	14	0	14	100%	0%
	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	14	0	14	100%	0%
	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	14	0	14	100%	0%
	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	14	0	14	100%	0%
	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	13	1	14	93%	7%
	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	14	0	14	100%	0%
	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	14	0	14	100%	0%
	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	14	0	14	100%	0%
	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	14	0	14	100%	0%
	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	14	0	14	100%	0%
	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	13	1	14	93%	7%
	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	14	0	14	100%	0%
	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	14	0	14	100%	0%

関係機関や保護者との連携	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	14	0	14	100%	0%
	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	14	0	14	100%	0%
	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校（幼稚部）等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	13	1	14	93%	7%
	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校（小学部）との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	14	0	14	100%	0%
	地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。	13	1	14	93%	7%
	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	13	1	14	93%	7%
	（自立支援）協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	12	2	14	86%	14%
	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	14	0	14	100%	0%
	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	14	0	14	100%	0%
	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	14	0	14	100%	0%
保護者への説明等	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	14	0	14	100%	0%
	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	14	0	14	100%	0%
	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	14	0	14	100%	0%
	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	14	0	14	100%	0%
	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	14	0	14	100%	0%
	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	14	0	14	100%	0%
	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	14	0	14	100%	0%
	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	14	0	14	100%	0%
	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	14	0	14	100%	0%
	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	8	6	14	57%	43%
非常時等の対応	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	13	1	14	93%	7%
	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	14	0	14	100%	0%
	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	14	0	14	100%	0%
	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	14	0	14	100%	0%
	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	13	1	14	93%	7%
	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	14	0	14	100%	0%
	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	14	0	14	100%	0%
	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	14	0	14	100%	0%
	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	14	0	14	100%	0%

### 3. アンケート集計結果（大項目）

大項目	回答数			回答割合	
	はい	いいえ	合計	はい	いいえ
環境・体制整備	69	1	70	99%	1%
業務改善	69	1	70	99%	1%
適切な支援の提供	180	2	182	99%	1%
関係機関や保護者との連携	135	5	140	96%	4%
保護者への説明等	134	6	140	96%	4%
非常時等の対応	124	2	126	98%	2%



### 4. 自己分析

#### ① 事業所の強みだと思われること

多職種の職員が在籍し、ケースカンファレンス等を通じて多角的な視点から支援を行っている。  
子どもの特性や状況に応じて、環境設定や職員配置を柔軟に調整できる点が強みである。

#### ② 工夫していることや意識的に行っている取組等

活動と課題の切り替えがしやすいよう、ホールと各クラス室を分けた環境設定を行っている。  
日々の振り返りや情報共有を重視し、支援の質の向上と安全管理に努めている。

#### ③ さらに充実を図るための取組等

外部研修や専門職との連携を継続し、専門性のさらなる向上を図っている。  
保護者や地域との関わりを深め、支援内容の理解促進と信頼関係の強化を目指している。

#### ④ 事業所の弱みだと思われること

業務量が多く、環境整理や振り返りの時間を十分に確保できない場合がある。  
医療的ケアが必要な児童への対応体制が十分とは言えない。

#### ⑤ 事業所として考えている課題の要因等

限られた人員体制や運営資源の中で、多様な業務を並行して行う必要があるためである。  
医療的ケアに対応できる専門職の常時配置が難しい状況にある。

#### ⑥ 改善に向けて必要な取り組みや工夫が必要な点

業務の整理や役割分担を見直し、支援と振り返りの時間を確保する。  
医療的ケアに関する研修の実施や外部機関との連携強化により、対応力の向上を図る。

### 5. 自己分析

子どもの特性や状況に応じて柔軟に支援を提供出来ていることや多職種の多角的な視点をカンファレンス等で共有が出来ていることを事業所の強みと捉えている職員が多数おりました。お子様の状態に配慮した環境の設定においても、柔軟に対応できているとの意見もありました。

今年度、毎日通園室のお子様を対象とし、近隣の幼稚園の園庭解放で、地域のお子様との交流の機会を作ることが出来ました。地域住民を事業所の行事に招待する等の機会は、サービスの特性上、作ることが出来ませんでした。今後も地域に開かれた事業所として、地域の方との交流の機会を検討すると共に、公共の施設を活用する等、地域の中での交流を意識した計画立案に努めてまいります。

また、業務量が多く、振り返りの時間を十分に確保できていないことを課題と感じております。業務の整理や役割分担などを見直し、業務効率の改善と支援の質の向上を図ってまいります。今後もお子様の安心安全を最優先に、より良い支援を提供していけるよう、更なる改善と向上に努めてまいります。

児童発達支援管理責任者 本間 弥生

【Bring up もりのみ幼児教室】

《児童発達支援》従業者アンケート集計結果

1. アンケート配布数・回収数・回収率

配布数	6	回収数	6	回収率	100%
-----	---	-----	---	-----	------

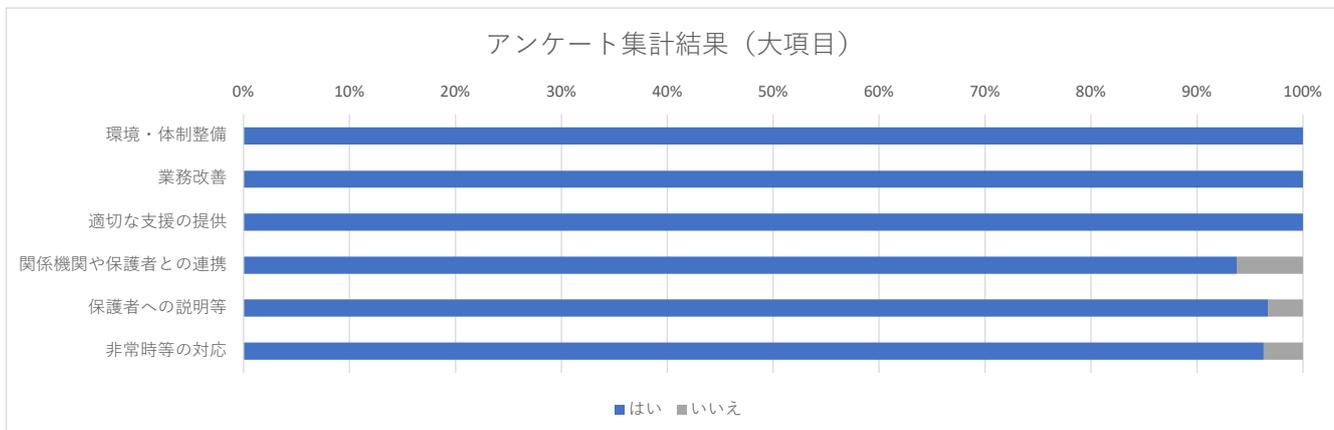
2. アンケート集計結果(大項目・小項目)

大項目	小項目	回答数			回答割合	
		はい	いいえ	合計	はい	いいえ
環境・体制整備	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6	0	6	100%	0%
	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	6	0	6	100%	0%
	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6	0	6	100%	0%
	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	6	0	6	100%	0%
	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6	0	6	100%	0%
業務改善	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	6	0	6	100%	0%
	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6	0	6	100%	0%
	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6	0	6	100%	0%
	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	6	0	6	100%	0%
	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6	0	6	100%	0%
適切な支援の提供	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6	0	6	100%	0%
	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	6	0	6	100%	0%
	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6	0	6	100%	0%
	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6	0	6	100%	0%
	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6	0	6	100%	0%
	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6	0	6	100%	0%
	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6	0	6	100%	0%
	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6	0	6	100%	0%
	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	6	0	6	100%	0%
	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6	0	6	100%	0%
	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6	0	6	100%	0%
	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6	0	6	100%	0%
	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6	0	6	100%	0%
関係機関や保護者と	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6	0	6	100%	0%
	地域の保健、医療(主治医や協力医療機関等)、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6	0	6	100%	0%
	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	6	0	6	100%	0%
	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	6	0	6	100%	0%
	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	6	0	6	100%	0%

の 連 携	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	3	3	6	50%	50%
	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6	0	6	100%	0%
	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	6	0	6	100%	0%
保 護 者 へ の 説 明 等	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6	0	6	100%	0%
	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6	0	6	100%	0%
	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	6	0	6	100%	0%
	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6	0	6	100%	0%
	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	6	0	6	100%	0%
	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6	0	6	100%	0%
	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	6	0	6	100%	0%
	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6	0	6	100%	0%
	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6	0	6	100%	0%
	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	4	2	6	67%	33%
非 常 時 等 の 対 応	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6	0	6	100%	0%
	業務継続計画(BCP)を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6	0	6	100%	0%
	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	6	0	6	100%	0%
	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	5	1	6	83%	17%
	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6	0	6	100%	0%
	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	5	1	6	83%	17%
	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6	0	6	100%	0%
	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6	0	6	100%	0%
どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	6	0	6	100%	0%	

### 3. アンケート集計結果（大項目）

大項目	回答数		合計	回答割合	
	はい	いいえ		はい	いいえ
環境・体制整備	30	0	30	100%	0%
業務改善	30	0	30	100%	0%
適切な支援の提供	78	0	78	100%	0%
関係機関や保護者との連携	45	3	48	94%	6%
保護者への説明等	58	2	60	97%	3%
非常時等の対応	52	2	54	96%	4%



### 4. 自己分析

#### ① 事業所の強み

利用者・職員数が少ないため、一人ひとりに目が行き届き、職員間の情報共有も密に行われている。  
また、児童発達支援センターや専門職と連携し、専門的視点を支援に活かしている。

#### ② 工夫している取組

日常的に職員間で話し合いを行い、支援の目的や意図を共有したうえで活動を実施している。  
子どもの状況や安全面についても、こまめな情報共有を行っている。

#### ③ さらに充実を図る取組

カンファレンスや内部研修を活用し、感覚統合やABA等の知識を継続的に学び支援の質向上を図る。  
専門職との連携から得た知見を日々の支援に反映していく。

#### ④ 事業所の弱み

専門職が非常勤のため、急な欠勤時の対応が難しいこともある。  
また、送迎サービスや土曜営業がなく、利用面で制約がある。

#### ⑤ 課題の要因

人員に余裕がなく、専門的対応が一部の職員に集中しやすい体制となっている。  
送迎者が保護者以外の場合、情報共有の機会が限られることも要因である。

#### ⑥ 改善に向けた取組

非常勤職員の増員やセンター職員との連携強化により、人員・専門性の補完を図る。  
電話やオンラインを活用し、保護者との情報共有を一層充実させる。

### 5. 自己分析

職員間で日々情報共有を行い、一人一人に関する状況を把握するように努めたり、安全に配慮した環境となるように連携をとっているとの意見があります。また、カンファレンスや内部研修を通して支援に関する知識を学んだり、専門職と連携を取ることで知識を得て、日々の支援に反映させていると職員間で評価しております。

課題点としては、保護者との情報共有が不十分との意見が出ております。人員に余裕がなく保護者と話をする時間を確保することが難しかったり、送迎者が保護者以外の場合の情報共有の方法が定まっていないことなどが要因と考えられております。

センター職員と連携を取りながら専門性の向上や人員確保に努め、支援の質の向上を図っていきます。その支援の様子が、保護者から見てわかりやすいものとなるように、支援後のフィードバックなど、情報共有の方法を考えていきます。一人一人に目を向けた小規模だからこそその支援を目指して今後も改善してまいります。